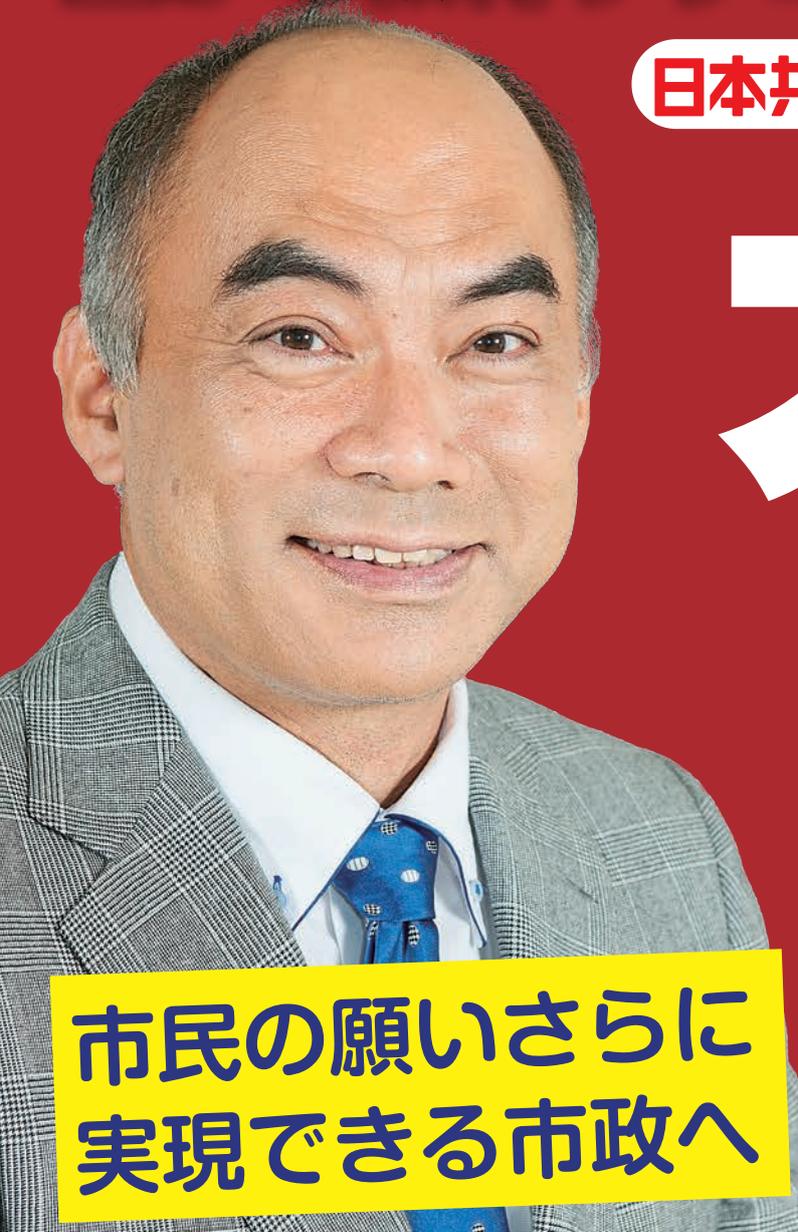


市民のいのち・暮らしを守り、 豊かな教育すすめる市政の実現を

日本共産党 町田くらしの相談室長

大野 まこと



市民の願いさらに
実現できる市政へ

●1965年江東区生まれ、小田原育ち●1987年国学院大学法学部卒●立川相互病院で5年間勤務●1992年から日本民主青年同盟立川昭島地区委員会専従●1998年から日本共産党に勤務、立川昭島地区委員長、都議候補、立川市長候補など歴任●現在、日本共産党町田地区副委員長●家族は息子（学生）



都議会議員

池川友一

私も大野さんと力をあわせてがんばります。

志を貫いて38年
今度は市政で
働かせてください

私は学生時代に、書店で『日本共産党の60年』を見つけて読み、戦前から反戦平和を貫いてきた党の歴史を知りました。「苦難があっても、絶対に国民を裏切らない党があった！」と感動して入党しました。以来38年、志を貫いて活動してきました。

「医療や保健所の体制を強化して」「小中学校はなくさないで少人数学級を進めて」「補聴器購入に補助を」「シルバーパスを都県境越えにも適用させて」―私は、伺ったみなさまの願いを必ず実現する決意です。日本共産党市議団を5人に増やして市政を変えましょう。ご支援よろしく願います。

新しい町田

2021年12月
2022年1月号外

発行／新しい町田社
〒194-0022 町田市森野 3-7-46

TEL 042(723)6312 / FAX 042(725)1988
E-mail machida.jcp@seagreen.ocn.ne.jp
日本共産党町田地区委員会の見解を紹介します。

ためされずみの政治家、市政に初挑戦



大野まこと

市民とともに 市政変えるために全力

子どもたち、親の願いが実現

中学校全員給食

2024年度から順次実施に

2018年、中学校全員給食実現を求める請願が2万3千人の署名とともに市議会に提出されました。請願は、自民（1人除いて）、公明などの反対で不採択となりましたが、その後の継続した市民運動と、「小学校のような中学校給食こそ必要」と、党市議団がくり返し、市議会できりあげるなか、2020年12月、市長は、中学校全員給食への転換の意思表示をおこない、2021年度予算に盛り込まれました。

堺中では2024年度から、その他の地域では2025年度から開始予定です。

小中学校の統廃合より 少人数学級を

石阪市政は、財政難を理由に公共施設再編計画を市民の理解と合意なしに進めています。

学校も例外ではなく、市立小中学校62校を41校に、3分の1も減らす「新たな学校づくり」計画をすすめています。

少人数学級が求められているなか、時代の流れに逆行する統廃合計画はやめるべきです。

《西部、成瀬地域で廃校予定の小中学校》

小山田小、忠生小、山崎小、木曾境川小、ゆくのき学園、成瀬台小、小山田中、町田3中

5人の共産党市議団の実現を



市議会議員・8期
とのむら健一



市議会議員・5期
佐々木とも子



市議会議員・6期
細野りゆう子



市議会議員・1期
田中 美穂

市民の理解と合意なしに

大型開発すすめる石阪市政と それを支える自民、公明

いま石阪市政は、「多摩都市モノレール延伸を前提としたまちづくり」を中心に据え、600億円を超える税金を町田駅周辺再開発に投入しようとしています。

その一方で、5年連続の国民健康保険税の値上げや税滞納者への給与差し押さえ、市葬祭事業や高校生の奨学金制度の廃止、障がい者施設家賃補助金の削減など、市民のくらしを直撃する削減計画をすすめています。

さらに、市立図書館8館を6館に減らし、文学館、博物館をなくす計画も。これに対して、公共施設存続を求める署名は、あわせて3万人を超え、請願はすべて採択。

この市民の声に耳を傾け、大型開発優先から市民のくらしと福祉、教育を守る市政に転換する時ではないでしょうか。

成瀬台、西成瀬、境川団地、 木曾東地域のみなさん

日本共産党市議団は、5名の議員団めざし、がんばります。こんどは大野まことさんへのご支援をよろしくお願いします。



成瀬台、西成瀬地域は
佐々木とも子市議から
バトンタッチ



境川団地、木曾東地域
は、とのむら健一市議
からバトンタッチ